



夏休み手芸教室

「フェルトのマスクケースをつくろう」

食事の時に外したマスクをしまったり、予備のマスクを持ち運んだりするときに便利な、マスクを折りたたんで入れるケースを作ります。

制作した作品は8月5日(金)から10日(水)まで館内で展示します。

- 日 時 8月4日(木) 午後1時30分から午後3時
 ■場 所 図書館 2階視聴覚室
 ■対 象 町内在住の小学4年生から6年生
 ■申込期限 7月8日(金)午後6時まで
 ■定 員 16名 (応募多数の場合は抽選で決定)
 ■協 力 手作り布絵本サークル「たんぽぽ」

- 参加費 無料
 ■持ち物 裁縫道具 (針、糸切りばさみ、チャコペンなど)、筆記用具、木工用ボンド
 その他、飾りとして使用したいものがあればお持ちください。
 ※飾りは図書館でも用意しています。

小さい子のお話の時間

図書館職員が赤ちゃん絵本の読み聞かせや手遊びなどをします。気軽にご参加ください。

- 日時 7月1日(金)、8日(金)、15日(金)、22日(金)、29日(金) 午前11時から午前11時15分
 ■場所 図書館「お話しのコーナー」 ■対象 0歳から3歳程度

※密集を避けるため、参加は先着3組までとなります。

7月の休館日 4日、11日、18日、19日、25日、28日 (月末休館日)

8月の休館日 1日、8日、11日、15日、22日、25日 (月末休館日)、29日

問合せ／図書館 TEL75-2266 FAX75-0506 Eメールtosyo@betsukai.jp

※月末休館日は、図書整理などのため休館させていただきます。
 ※休館中の返却は玄関横の返却ポストをご利用ください。
 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、各種予定が変更となる場合があります。

郷土資料館からのお知らせ

郷土資料館から

特別展 「根室海峡から発見されたマンモスゾウ臼歯化石」のお知らせ



氷河期を代表する動物であるマンモスゾウの臼歯化石は、国内で12点しか発見されていません。その内5点は、根室海峡から、内3点は、野付半島沖からのものです。国内でも有数の発見地である根室海峡の臼歯化石を一堂に集め、特別展を開催し、発見の意義や学術的に価値が高いものであることを紹介します。

- 期 間 7月6日(水)から9月25日(日)
 ■場 所 郷土資料館第2展示室
 ■観覧料 350円 (高校生以下無料)



サマースクール 「大昔のべつかい・まが玉づくり」のお知らせ

古代の人々は、粘土で作った土器で食事を作ったり、石で作ったまが玉を身に付けていました。そこには、たくさんの生活の知恵が込められ、苦労もありました。古代の人々の生活に挑戦し、その知恵と工夫を学んでみませんか。

- 日 時 8月4日(木) ①午前の部 午前10時から正午
 ②午後の部 午後1時30分から午後3時30分
 ■内 容 ①お話 大昔のべつかい ②体験活動 まが玉づくり
 ■対 象 小学校以上の方 (親子で参加することもできます。)
 ■定 員 5名 ■申込期間 7月4日(月)から29日(金)
 ■申 込 み 電話またはEメールにて、お名前と電話番号をご連絡ください。



7月の休館日 2日、3日、11日、16日から18日、25日、30日、31日

8月の休館日 6日から8日、11日、20日から22日

問合せ／郷土資料館
 TEL・FAX 75-0802
 Eメール kyoudo@betsukai.jp

共生社会の形成に向けて インクルーシブ教育の推進

■通常学級における困り感（※１）のある児童生徒の対応

学校には軽度発達障がいのある児童生徒を含め、特別支援学級に在籍せず、通常学級に在籍する困り感を抱えている児童生徒がいます。

そういった児童生徒一人一人の状況に応じた教育を受けさせたいというニーズの高まりから「通級による指導」を受ける児童生徒数は全国的に年々増加し、本町も同様の傾向にあります。

※１「困り感」とは

例えば、注意欠如多動症（ADHD）傾向の子どもは、本人は頑張りたいと思っても、授業中に気が散ってしまったり、じっとしていられないことがあり、学習に支障をきたす場合があります。また、自閉スペクトラム症傾向の子どもは、相手の気持ちを察することが苦手であることが多いため、本人に悪気はなくても友達とトラブルになってしまうことがあります。

その他、特定の教科が極端に苦手になってしまうことなどがあり「困り感」は児童生徒によってさまざまですが、本人が意図しなくても、生活面や学習面で支障をきたす状況を指します。

インクルーシブ教育とは障がいの有無に関わらず、誰もができるだけ同じ場所で学ぶことを目指す教育の仕組みです。共生社会の実現に向けて、その環境整備を進めるとともに、特別支援教育の充実も図ります。

■多様な学びの場の提供について

現在は「通常学級」と「特別支援学級」だけでなく多様な学びの場として、通常の学級に在籍しながら、児童生徒の状況に合わせて、一部の時間（※２）に特別な場で、自立に向けた教育を受けることができる「通級による指導（通級指導教育）」が平成５年度に制度化されました。

※２

週８時間以内で、担当教員が、通常学級の中で支援や個別支援を行うことができます。

●平成５年以前の教育体制

通常学級

特殊学級



●現在の教育体制

通常学級
通級による指導
「通級指導教室」
平成５年に制度化

特別支援学級
平成１９年に制度化

通級指導を受ける児童生徒



基本は通常学級での指導
＋（プラス）

個に応じた指導

「通級による指導（通級指導教室）」は基本的に、言語障がい、自閉症、情緒障がい、弱視、難聴、限局性学習症（LD）、注意欠如多動症（ADHD）を対象としています。

■本町の「通級指導教室」現状と今後について

通級による指導を担当する教員は、北海道教育委員会からの加配教員（学級に応じた定数教員のほか、必要に応じて配置される教員）となり、通級指導を受ける児童生徒が一定数必要となります。

そのため、現在「通級指導教室」を開設しているのは、全体の児童数が多く、通級指導教室を希望する児童の多い別海中央小学校のみ（２学級）となっています。

しかし、本町においても通常学級に在籍しながら、個別の支援が必要だと考えられる児童生徒数が増えている状況にあります。

今後、別海中央小学校以外の学校についても「通級指導教育」の設置に向けて、引き続き調査と検討を行います。また、指導に当たっては、教員の指導力向上のために、北海道特別支援教育センターから講師を招いて、担当教員などを対象とした「研修会」を実施します。

■北海道立特別支援教育センターの各種相談について

北海道立特別支援教育センター（札幌）では、電話やＥメールによる教育相談のほか、来所相談、パソコンやタブレット端末などを使った遠隔相談（来所相談や巡回相談を実施した方）などを実施しており、より専門的な相談を受けることができます。詳しくは、同センターのホームページ（<http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/>）または、下記担当へお問い合わせください。

別海町教育委員会 TEL 75-2111（内線3504・3712） 担当：吉光寺、高津